

---

Alternative **その答えは**

ゲイヴン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Alternative その答えは

### 【Nコード】

N4466BA

### 【作者名】

ゲイヴン

### 【あらすじ】

A C f aの主人公が、M u v - L u v A l t e r n a t i v eの世界に飛び傭兵として戦い抜いていくなかでどのような答えを見つけるのか。

作者は、小説の投稿が初めてでゲームはプレイしますがうまく書けるかなり怪しいレベルです。衝動で書きだした感じなのでご容赦ください。

## プロローグ（前書き）

初めての小説の投稿 + 文才皆無の人間ですのでもうまくやっていますか不安ですが、がんばります。

## プロローグ

アンサラーの撃破を確認。ミッション完了だ。「セレンから通信が入る。クローズプランを第一段階に進めるためテルミドールからの依頼で俺は、AFアンサラー撃破の依頼を受け現在そのミッションが完了した所だった。

「アンサラーが落ちた。企業連はどう動くかな？」俺がそう言うとセレンは、

「まあ、最新型のAFを落とされたんだ落ち着いてはられないだろうさ。とりあえずミッションは終了したんだ。早く戻って来い。」

「了解」と俺が返事を返したと同時に異変が起きる。

「何だ・・・！アンサラーの残骸から大規模コジマ収縮反応だ！！どうなっている！」セレンが驚いた声を上げる。

「どうした！セレン！！」

「急いでそこから離れる！なぜか分からないがアンサラーのAAが来るぞ！！」セレンの声を聞いて急いでその場から離れるためOBを起動するが、その瞬間アンサラーのAAが起動する。

「ダ、ダメだ！間に合わない！！」AAの光が目の前に広がっていく、

「セ、セレン！！」パートナーの名を呼んだところで俺の意識はなくなった。

## プロローグ（後書き）

とりあえずプロローグ投稿。これだけしか書いてないのに緊張した。

## ネクスト設定（前書き）

機体設定です。

## ネクスト設定

ネクスト名 ストレイド  
頭部パーツ HD - HOGI RE  
コアパーツ SOLUH - CORE  
腕部パーツ 03 - AALIYAH / A  
脚部パーツ 03 - AALIYAH / L  
F . C . S FS - LAHIRE  
メインブースター MB11 - LATONA  
バックブースター BB11 - LATONA  
サイドブースター SB11 - LATONA  
オーバードブースター KRB - SOBRERO  
ジエネレーター LINSTANT / G  
右腕武器 063ANAR  
左腕武器 063ANAR + 07 - MOONLIGHT  
右背中武器 HLC02 - SIRIUS  
左背中武器 GRB - TRAVERS  
肩武器 SM01 - SCYLLA  
スタビライザー 頭部右 HD - HOGI RE - OPT01 頭部  
左 HD - HOGI RE - OPT01  
脚裏 03 - AALIYAH / LBS1 脚表右  
04 - AALIYAH / LUS2  
脚表左 04 - AALIYAH / LUS2

作品主人公の乗るネクストの設定です。左腕にブレードのMOONLIGHTを装備してますが、ゲームでは不可能ですが、まあこの作品は小説ですのでご勘弁してください。使用するときには、脚部に付いているバックブースターの部分にライフルを取り付けられるモジュールが付いていますのでそこにライフルを装着してから使用し

ます。

武器の設定ですが、ゲームと違いオリジナルの設定があります。例えば右のSIRIUSに関しては、

- ・出力の調整が可能で調整の幅は、小さければパルスキャノンと同じ様な性能になり、最大出力の場合は、ACファンの皆さんはご存知のラストレイヴンに出てきたハンドレーガンのような性能になります。（あのOPでは、一発で敵部隊を壊滅させた性能に多くのレイヴンは、感動したはず。自分もそうでした。実際は、だまして悪いが、フロムマジックでしたが。）あとは、精密射撃が可能な設定です。

左のTRAVERSは、

- ・着弾時の爆発規模がMSACの核と同じ規模になっています。ちなみに弾数も18発だときりが悪いので20発になっています。

左右の063ANARは、

- ・形が初代ACの1000マシなので1000発に設定しています。もちろん連射できます。

肩のSCYLLA

- ・ASミサイルではなく、普通のミサイルです。敵をロックする必要がある。

ブレードに関しては、

- ・旧作品にあった光波が出せません。何で出せるのかわ後ほど分かります。

ネクストの設定で避けて通れないのがコジマ粒子の設定ですが、この作品ではご都合主義で

- ・別世界に飛んだので汚染は一切起きない設定。なおかつコジマ粒子を使っているジェネレーターは、半永久機関の設定です。（ようはガンダムOOのGN粒子と同じようなもの）OBとQBは事実上レギュの1.15見たいな感じにやりたい放題です。PAに関して



は、レーザー属種の攻撃も防げますがさすがに完全には防げません。後ネクストの全長ですが、公式では約10mちよつとぐらいですが、この小説では不知火とほぼ同じくらいの全長に設定しています。と一応こんな感じでネクストの設定は行きます。ちなみに、この機体構成で作者はゲームをプレイしてます。レギユは1.40です。もしよかったらゲームで組んで見てください。見た目重視のロマン機体です。

## 第1話（前書き）

物語開始です。がんばるぞ！

## 第1話

1998年 夏 日本

重慶ハイヴから東進したBETAが日本上陸瞬く間に西日本側が占領され現在、首都京都ではBETAを止めるための防衛線が行われていた。

「う、うわああああ！死にたくねえ！！く、来るな！！ぎゃー！！」

一機の戦術機が戦車級に群がられ管制ユニットを食い破られ食われる。

「救援はまだか！このままじゃ防衛線を破られる！HQ！救援はどうなっている！！」

いくら倒しても次から次に溢れてくるBETAの数に押されてこの防衛線もすでに3分の2近くの機体がやられいつ防衛線が抜かれてもおかしく状態であった。

「現在、他の防衛線に敵が進行しているため救援に回れる部隊がありません。現在の戦力で対処願います。」HQから通信が入る。

「ふざけるな！もう弾薬も残り少ない、戦力の3分の2近くがやられた現状でどうしろと言うんだ！！」

部隊の隊長は返信する。しかし、  
「他の防衛線も同じ状況です。現状の戦力での対処をお願いします。」

返ってくる返信は先ほどと同じ。

「ぐううう！！了解！！！！」

無念の声で通信を切る。

「隊長！！救援は！！」

部下の一人が通信してくる。

「救援は来ない！！他の防衛線にも敵が進行してきて救援に回れる

部隊がない！現状の戦力で対処する！」

「そんな！無理ですよ！！この状況で敵の進行を防ぐのは不可能です！！！」

モニターを見ればこちらに接近してくる要撃級、突撃級、戦車級の大群その後ろには、光線級に重光線級の反応がある。部下の言うことはもつともだが、

「ここで防がなければ京都から避難している一般市民に被害が出る！何としても食い止めるんだ！！！」

部隊に激を飛ばすが状況は最悪、全滅も時間の問題かと脳裏に浮かんで来た時部下の一人から通信が入る。

「隊長！西から高速で飛翔してくる物体があります！」

「なんだと！一体何だ！」

「わかりません！しかも速度が亜音速に達しています！！！」

「ばかな！新種のBETAか！」

「まもなく視界入ります！」

部下の通信を受けてまもなくここに来る謎の物体の来る方向を見る。

「何だあれは！！！」

部下のが驚きの声を上げる。モニターに写っているのは見たこともない白い戦術機だった。

時間は少し戻る。

「一体俺はどうなったんだ？」（アンサラのAAの食らい目の前が光に包まれた所までは覚えている。直撃だったのだ俺は間違いなく死んだはず）しかも機体も無傷の状態・

「一体どうなっているんだ？」気が付けばあたり一面に気味が悪い生物の死骸や見たことのないノーマルの残骸がある。さっきまではこんなものは無かったはず一体どうなっているのか訳がわからない。

「現在地は・・・ダメだエラーで特定できない。ここは一体・・・！！！」

場所が特定できず考えていたところにレーダーに反応を感知する。

「ちっ！一体何だ・・・ものすごい数の何かが接近してくる。」レ  
ーダーに反応が出てからその数が一気に増えていく。

「何だかわからんが、ぼさっとしていっているわけにもいかない。」

俺は、すぐにジエネレーターを起動する。

（メインシステム起動、各部、武装に異常なし。大気中のコジマ粒子・・・何！大気中のコジマ粒子が0だと！どういうことだ！！）  
機体に異常は見られないが、それ以上にコジマ粒子が大気中に無い  
ことに俺は驚いた。

（くそ！何が何だか訳がわからん！）俺は、頭を掻き毟っていると  
モニターに先ほどの反応した何かが写し出された。

「あれは！」俺の視界に入ってきたのは、周りに散らばっている死  
骸の生物と同じ物がこちらに接近してきている様子だった。

（何なんだあの生物は？トールラスあたりが作った新種の生物か？）  
そんなことを考えている最中も謎の生物は一直線にこちらに向かっ  
てくる。

（どう考えてもお友達になれるような感じじゃないな・・・ならば  
排除するのみ）

俺は、すぐに機体を戦闘モード切り替える。

「さてと、ここがどこはまだわからんが、まず目の前の障害を排除  
する！」OBを起動しこちらに向かってくる生物の大群に俺は向か  
って行った。

「くたばれ！」サソリのような形の生物に向かって両手のアサルト  
ライフルを撃つ。頭と思われる部分に命中するとその部分が弾け飛  
ぶ。次いで前面が甲羅のようなもので覆われた生物に攻撃を加える  
が、

「むっ？効いていないのか？」甲羅のような部分に銃創は付いてい  
るが、死なずにこちらに向かってくる。QBで側面に移動し再び攻  
撃を加える。今度は聞いたのか内臓の飛び散らせて横転する。

（種類によって能力に違いがあるようだな）今の攻撃でこの生物達

が種類によって能力に違いがあることがわかり俺は、他の生物も確認してみる。

（他には、小さい人間サイズのものやそれより少し大きめの物、奥に見えるのはこの中で一番でかいな）

モニターを見ながら確認していると突然警報が鳴り出す。

「一体何だ！」警報がなった瞬間にQBを行う。目の前を光が通り過ぎる。

「レーザーか！」一本のレーザーが通り過ぎた後も警報は止まず次々にレーザーが照射されてくる。

それをすべてQBで回避する。すぐにレーザー照射のあった位置にカメラを向けると、

「今の奴はアレが撃ってきたのか・・・」モニターに写るのは、目玉に脚が付いている生物で小さいのとでかいのがいた。

（まさか、レーザーまで撃ってくる奴いるとは、アレを先に始末しないと面倒だな）いくらPAがあるとはいえレーザーは完全には防げない。ならば、食らわないに越したことはない。

（見たところ次を撃つまで時間がかかるみたいだな。すぐに、撃てれば連射すればいいはずだ）そう確信した俺は、OBを起動し一気に接近する。

「まとめて消し飛ばす！」左背部のグレネードキャノンを起動し打ち込む。目玉の小さいのもでかいのもまとめて吹き飛ばす。面倒な相手を片付け残りを掃討する。一番でかい奴が触手様なもので攻撃してくるがQBで一瞬でよける。

「あの目玉以外はあまりたいしたことは無いみたいだが、数が多いなライフルは弾が持たないな。」

そう考え俺は右背部のハイ・レーザーキャノンを起動しチャージを始める。

「うまいこと固まっているな・・・吹き飛ばす！」

チャージ完了と同時に集団の中心にレーザーを打ち込む着弾後、四方100m以上が吹き飛ばす。煙が晴れそこには、生物の死骸の山が

出来上がっていた。残りはわずかですぐに排除する。

「これで終わりのようだな」あたりを見渡すとこちらに向かってくる生物はおらず一息つく。

「しかし、この生物は一体何なんだ？それに、俺はなぜ死んでいない？」訳のわからない事だらけだがここでじっとしていてもしょうがない。

「とりあえず移動しよう。もし人間に会えばここがどこか聞けば良い。」

OBを起動し空に飛び立つ。そして、時系列は戻る。

## 第1話（後書き）

何か戦闘シーンがうまく書けてない。こんな感じで進んでいくと思います。読んでくださる方々がいれば幸いです。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4466ba/>

---

Alternative その答えは

2012年1月12日02時52分発行